

会社概要(2011年12月31日現在)

社名 株式会社 構造計画研究所
 英文商号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
 設立年月日 1959年5月6日
 資本金 1,010百万円
 決算期 6月
 上場市場 大阪証券取引所 (JASDAQスタンダード)
 事業内容 エンジニアリングコンサルティング
 システムソリューション
 プロダクツサービス

株式の状況(2011年12月31日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
 発行済株式総数 6,106,000株
 株主数 2,297名

株主メモ

事業年度 7月1日～翌年6月30日
 基準日 6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目
 10番11号
 TEL: 0120-232-711
 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.kke.co.jp>
 (ただし、電子公告によることができない
 事故、その他のやむを得ない事由が生じ
 たときは、日本経済新聞に公告いたし
 ます。)

知粋館がグッドデザイン賞を受賞

前期の期末報告書でご紹介した三次元免震住宅「知粋館」がグッドデザイン賞を受賞しました。三次元免震、住宅履歴管理システム、エネルギー環境モニタリング等の機能面とデザイン性の高さの両立が評価されました。



株主の皆さまとKKEをつなぐ
KKE : REPORT

54期(上半期)

2012年6月期(上半期)(2011年7月1日～2011年12月31日)

KKE is a Professional Engineering Design Firm that act as a bridge between academic and business worlds.



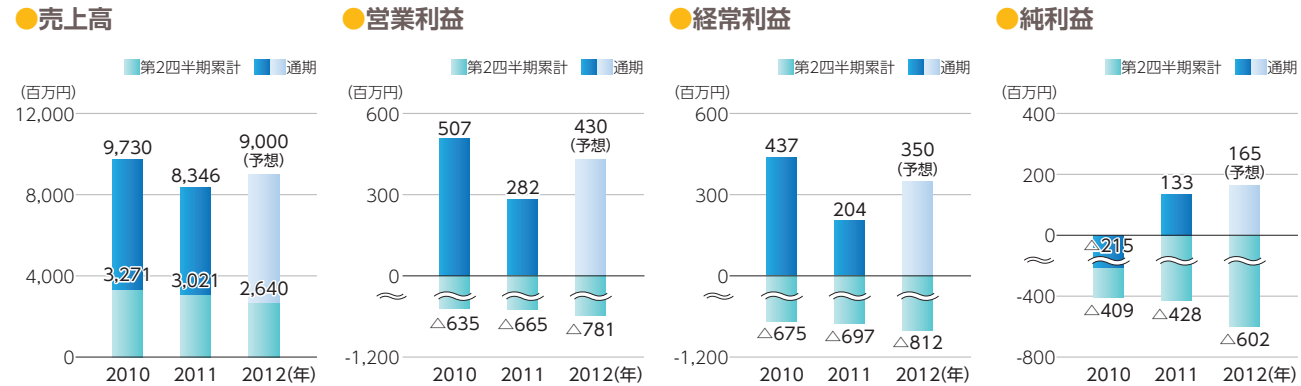
平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
 構造計画研究所は1956年の創業以来積み重ねてきた「工学知（エンジニアリング）」を最大限に活用し、社会の問題を解決する「総合エンジニアリング企業」を目指しております。
 当社のステークホルダーの皆様におかれましては、当社の支援者として、あるいはパートナーとして長期的な信頼関係を築きたいと考えております。
 今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社構造計画研究所

■第2四半期累計期間の業績

売上高につきましては、通信関連の研究開発機関向け研究試作業務などが減少したことにより、26億40百万円(前年同期比3億81百万円の減少)となりました。
 利益面につきましては、外注委託費の削減をはじめとする採算性の向上に努めましたが、売上高の減少による影響により、営業損失は7億81百万円(前年同期比1億16百万円の損失増)、経常損失は8億12百万円(前年同期比

1億14百万円の損失増)、投資有価証券評価損を特別損失として計上したことなどにより、四半期純損失は6億2百万円(前年同期比1億73百万円の損失増)となりました。
 なお、当社では成果品の引き渡し、多くの顧客が決算期を迎える3月末から6月末に集中するため、例年、年間売上高の約70%が下半期に計上されております。



これまで蓄積した「知」を最大限に活用した技術開発や新規事業の開拓に取り組み、広く社会の安心、安全、発展に寄与する新たな付加価値を創出するとともに、今後も継続して付加価値の源泉である人材の採用や育成に注力し、個人および組織の付加価値向上を目指してまいります。



※当社では営業利益に人件費を加えた額を付加価値と定義し、各ステークホルダーへの分配可能原資を表しています。

■通期の見通し

当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続きますが、既存テーマにおけるプロジェクト管理の徹底やソリューションの品質確保、組織的な品質管理体制の構築に努めるとともに、新規開拓では下記の3つの重点テーマに注力してまいります。
 コスト面では、品質管理の徹底による不良プロジェクト

発生 の未然防止、業績連動型年棒制の導入による利益のブレ幅縮小、業務の内製化による外注費の削減等により、引き続き経費のコントロールを徹底してまいります。
 こうした取り組みにより、通期の業績予想は売上高90億円、営業利益4億30百万円、経常利益3億50百万円、当期純利益1億65百万円を見込んでおります。

当社の方向性

既存テーマ ▶ プロジェクト管理の徹底とソリューションの品質確保
 ▶ 組織的な品質管理体制の構築

新規開拓 ▶ 付加価値を向上させるために取り組んでいる3つの重点テーマ

品質管理特命担当

- 見積、契約形態も含む、上流工程からのプロジェクト管理の徹底
- 開発・設計技術者教育およびプロジェクトマネジメント教育の継続実施

システム開発、エンジニアリングコンサル業務

- ソフトウェア工学に基づく高品質・高生産性の追求【アドバンスト・テクノロジー・センター】
- 蓄積された工学知の活用による不良プロジェクトの未然防止【ソフトウェア工学センター】

構造設計業務

- 超高層、免震、制振など特化した技術分野における選別受注
- 構造設計業務専門の独立した品質管理部門の設置【構造品質センター】

防災ビジネス

- 予防・復旧・復興をトータルに支援するソリューションの提供

スマートビジネス

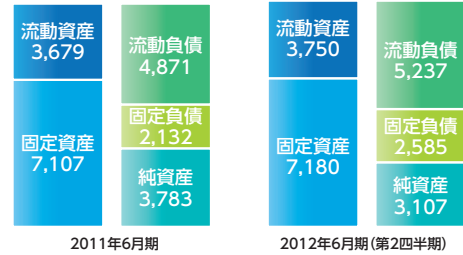
- スマートハウス、スマートシティ、スマートモビリティを実現するソリューションの提供

ビッグデータビジネス

- ビッグデータの分析に活用できるデータマイニング、レコメンド技術の提供

■ 四半期貸借対照表のPOINT ■

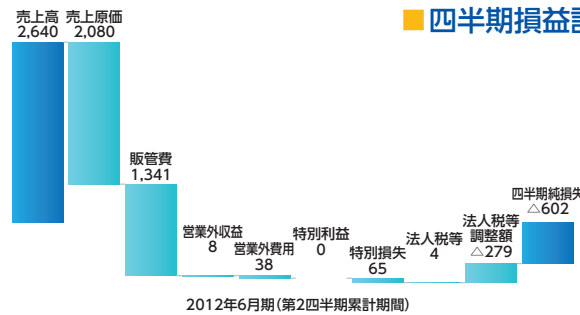
(単位：百万円)



- 仕掛品が4億10百万円増加する一方、現金及び預金が3億98百万円減少したことなどにより、流動資産は前事業年度末に比べて1.9%増加しました。
- 1年内返済予定の長期借入金が3億25百万円増加する一方、未払費用が1億96百万円減少したことなどにより、流動負債は前事業年度末に比べて7.5%増加しました。

■ 四半期損益計算書のPOINT ■

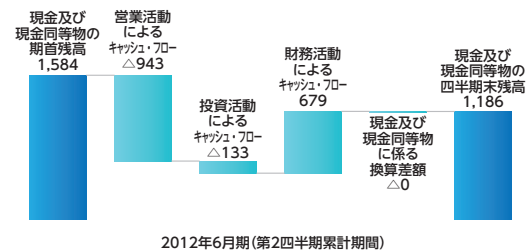
(単位：百万円)



- 外注委託費の削減をはじめとする採算性の向上に努めたものの、売上高の減少による影響により、営業利益、経常利益ともに期初予想を下回りました。
- 保有有価証券の一部につき、減損処理による投資有価証券評価損63百万円を当第2四半期累計期間内において特別損失として計上しました。

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書のPOINT ■

(単位：百万円)



- 税引前四半期純損失8億77百万円、たな卸資産の増加額4億10百万円等により営業活動による資金の減少は、9億43百万円となりました。
- 配当金を58百万円支払う一方で、長期借入金の純増額が7億45百万円となったことにより、財務活動の結果得られた資金は6億79百万円であります。

■ 四半期貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期 (2011年12月31日現在)	前事業年度 (2011年6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,750	3,679
現金及び預金	1,186	1,584
受取手形及び売掛金	981	1,203
半製品	3	3
仕掛品	781	370
その他	868	592
貸倒引当金	△70	△75
固定資産	7,180	7,107
有形固定資産	5,749	5,764
無形固定資産	371	303
投資その他の資産	1,059	1,039
資産合計	10,930	10,787
(負債の部)		
流動負債	5,237	4,871
買掛金	204	266
短期借入金	2,680	2,680
1年内返済予定の長期借入金	1,255	930
その他	1,097	994
固定負債	2,585	2,132
長期借入金	960	540
長期未払金	250	350
退職給付引当金	1,275	1,173
その他	100	69
負債合計	7,823	7,004
(純資産の部)		
株主資本	3,149	3,809
資本金	1,010	1,010
資本剰余金	1,113	1,113
利益剰余金	1,324	1,984
自己株式	△298	△298
評価・換算差額等	△42	△26
純資産合計	3,107	3,783
負債純資産合計	10,930	10,787

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期累計 (2011年7月1日から 2011年12月31日まで)	前第2四半期累計 (2010年7月1日から 2010年12月31日まで)
売上高	2,640	3,021
売上原価	2,080	2,245
売上総利益	559	775
販売費及び一般管理費	1,341	1,440
営業損失(△)	△781	△665
営業外収益	8	9
営業外費用	38	41
経常損失(△)	△812	△697
特別利益	0	7
特別損失	65	11
税引前四半期純損失(△)	△877	△701
法人税、住民税及び事業税	4	4
法人税等調整額	△279	△276
四半期純損失(△)	△602	△428

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期累計 (2011年7月1日から 2011年12月31日まで)	前第2四半期累計 (2010年7月1日から 2010年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△943	△1,026
投資活動によるキャッシュ・フロー	△133	△157
財務活動によるキャッシュ・フロー	679	315
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の減少額	△398	△869
現金及び現金同等物の期首残高	1,584	2,228
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,186	1,358

発信、工学知。

KKE Vision 2011 開催

自社プライベートイベント「発信、工学知。KKE Vision 2011」を
2011年10月12日～14日の3日間開催。
約1,900人の方にご来場いただきました。



大学、研究機関とビジネスパートナーとの間に立ち、より素晴らしいエンジニアリングソリューションを提供する場として、毎年開催しているKKE Vision。今回は、3日間に渡り、様々な分野の専門家の皆様に講師としてご登壇いただき、「工学知のクロッシング（交叉）」を実現することで、「社会に貢献できるエンジニアリングとは何かを改めて考えるきっかけの場となること」を意図しました。

■ テーマ／来場者数

開催日	テーマ	来場者数
10月12日	安心・安全社会の構築	617
10月13日	製造業の未来を切り開く技術	572
10月14日	復興と未来の都市インフラ	702

■ 講演数：53講演

来場者の声



「石油タンクの地震および津波被害と対策」
これまでマスコミを通してしか知ることのできなかった危険物貯蔵設備の被害について、発生過程を詳しく知ることができ、大変参考になった。

記念講演「宇宙原理と建築」
改めて、哲学なくして、これからの企業の生き方なしの感を得た。鉄と太陽エントロピーの説明が面白かった。もう一度、構造の安全性を見直す、良い機会であった。



「ストーリーとしてのICT未来構築」
研究を実務でやっている人から、希望とある意味の限界をきけたことは意味あった。



体感展示の様子

● KKE Vision 2011 担当執行役員の声 ●

現代の社会は、当社が設立された50年前とは、比べ物にならないほど複雑化し、それに伴い、当社に求められるお客様のニーズも多様化してきています。震災復興、エネルギー・環境問題、通信網やITインフラのあり方、防災ネットワークの確立、製造業における業務プロセス改革など、広範囲にわたり複合的かつ多様な対応が求められ、我々エンジニアリング企業にも多くの課題が、投げかけられていると認識しています。こうした複雑な課題には、様々な分野の専門家がお互いに能力を出しあい、知識や人の「クロッシング（交叉）」を実現することで、新たなソリューションを創造し、真の解決を図る必要があるのではないのでしょうか。

「知をつなぎ、つむぎだす」橋渡し役を担うことを経営理念に掲げる当社では、こうしたイベントを通じて「構造計画研究所のできることを知っていただくと同時に、研究者の方には実業界におけるニーズを、実業界の方には新たな先端研究によるヒントを得る機会となることを期待しています。おかげさまで今回も非常に好評をいただき、こうした機会を欲している方は潜在的にも相当数いると改めて感じました。今後は当社事業を知らない方々に認知の機会を広げるとともに、東京以外の地域でも開催しながら、より多くの方々と接点を増やしていきたいと考えています。



執行役員 海外・マーケティング戦略部長
猿渡 青児